

原爆犠牲者となった先輩方の思いを引き継ぐ

レポーター ひろ記者 津森正裕

「安心かつ安全で持続可能な社会の実現」と「経済および国民生活の安定と向上」に資することを使命として活動する一般社団法人日本損害保険協会中国・四国支部の山田事務局長にお話を聞いた。



▲山田事務局長

〈慰霊碑「友愛の碑」〉

戦前には多くの損害保険会社が今の平和記念公園の周辺にあり、原爆により89名の損害保険会社職員が亡くなった。慰霊と平和へのいしづえを祈念して、1965年、当時の協会広島地方委員会（現中国・四国支部の前身）が中心となり、慰霊碑「友愛の碑」を平和記念公園前の平和大通り沿いに建立。以降、毎年8月6日には会員各社等が「友愛の碑」に集まり、献花参拝する慰霊行事を行っている。産業別の記念碑建立は珍しいとのこと。



▲友愛の碑

「友愛の碑」は、鳥取県伯耆町出身の彫刻家 故辻晋堂（1910年ー1981年）作。台石（万成石）の上にブロンズ製の彫刻。4個の十字形は人間の形を表し、4は東西南北を示し、全世界を意味している。上部にある十字形は死者、原爆犠牲者を表し、4個の人の形により平和を希求する全世界の人々の愛と良心が原爆犠牲者



▲慰霊祭

の冥福を祈っていることを表現したい願いが込められている。

〈戦争保険〉

業界には戦争保険の歴史がある。太平洋戦争直後の昭和16年12月、政府は戦争保険臨時措置法を公布。戦闘行為に基づく火災、損壊による損害を補償する戦争保険を制定。昭和19年4月に火災保険に強制付帯する戦時特殊損害保険法が施行されると、広島市民も一斉に申し込みを始めたため損害保険会社は連日多忙を極めた。

8月6日の原爆投下後、人々の不安を収めるため、8月10日には当日の日銀店内に各社の合同支払い事務所を設け、保険金の臨時支払事務が行われた。

〈平和の基盤の一つである日常の安定を推進する活動を展開〉

日本損害保険協会中国・四国支部は、広島市に拠点がある損害保険会社8社で構成。個人向け保険の啓発とともに、自然災害、自転車事故、サイバー攻撃など、地域住民および中小企業向けセミナーの企画運営も担っている。

また、「災害時や車の事故・故障時に保険が使える」と勧誘する事業者とのトラブル防止として、「契約前に、あらかじめ契約している保険会社代理店へ相談する」ように注意喚起も行っている。平和の基盤の一つである、日常生活の安定を大切にしなければならないこと再確認して、平和公園での取材を終えた。

「ひろ記者」とは、市民自らが地域のまちづくり活動やイベントなどを取材し発信していく、広島市の市民レポーターです。

▶ <https://www.city.hiroshima.lg.jp/soshiki/14/7197.html>



らしくコラム

Rashikku column

被爆の記憶という生命線

被爆80年を控えた昨年末、2024年ノーベル平和賞受賞により、広島・長崎の被爆体験を広く伝え、人類に核なき世界への道を照らしてきた被爆者と支援者の功績が国際的に認識されました。その一方で、被爆者健康手帳を所持する被爆者数が今年10万人を切り、いよいよ「被爆者なき時代」が到来し、これまで訴えてきた「核の脅威」の忘却が新たな核戦争を導く」という懸念が高まっています。

実に、国際情勢は混沌を極めています。東欧・中東における紛争やアジア太平洋地域の緊張を巡って、核兵器使用または核事故による放射性物質汚染の可能性など予断を許さぬ状況です。同時に、米国の関税措置には慎重な経済・外交的対応が求められ、将来の国内外の政治・経済動向と、世界的な環境変化による物資供給の課題を見据えた様々な選択が迫られています。気候変動と自然災害は、安全保障と経済政策に直結する問題であり、判断の拠り所は情報です。有事に命を守るには「正確な情報に基づいて迅速に行動する」ことです。しかし、昨今、フェイクニュースを鵜呑みにした集団の行動が深刻な社会的問題となっています。情報心理の研究結果によると、フェイクニュースは不完全な情報をドラマ仕立てで流すため、大衆の関心を惹きやすく、正確な情報の数倍速く伝播し、蔓延し、都合よく解釈され、自分に関する記憶へと変化しやすいからです。核のタブーは忘れ去られ、為政者が核兵器使用をちらつかせ、インターネットに核攻撃シミュレーションサイトが公開されるこの時代、原爆・被爆に関する誤情報も氾濫し

ています。被爆者数が減少し、被爆の実相に興味がない若い層が増えれば、原爆の記憶は無に帰し、80年の努力は泡と消えるのでしょうか。

記憶学の実証研究では、むしろ今こそ被爆の記憶が影響力を発揮すると分析しています。「記憶」は生き物であり、永久保存できませんが、誰かが被爆体験者の記憶を知ろうとする限り、その人の中に生き続けます。「被爆の記憶のかげら」を心の内に取り込み、当事者感覚で「核戦争の犠牲になりたくない」と感じることで、核兵器使用を忌避する世論を導きます。そしてその実践が、戦後80年、今日まで核戦争を回避してきた私たちの生命線です。ですから、被爆証言や資料を「作成・保存・管理」で終わらせずに使うこと。読んで、見て、話して、さらに被爆地を歩いて体感することで、当事者感が育まれます。大事なことは「生きた記憶・脈々と続く生の記憶」の命を枯らさないことです。



Profile

広島大学平和センターセンター長・広島大学学術院大学院人間社会科学研究科平和共生プログラム准教授
Luli van der DOES (ファンデルドゥース瑠璃)

英国エディンバラ大学修士(社会心理・認知言語学)、ケンブリッジ大学修士(応用言語学)、シェフィールド大学博士(社会科学)。専門は記憶学。多分野横断的に、個人の嗜好や流行から、教育・思想・政策まで、「記憶」がいかなる条件とプロセスで個人の意思決定に影響し、動員し、世論を左右するのかを研究。メディア、教育訓練、博物館など展示と啓発、観光と広報などの分野で、平和的思考の醸成と自発的継承行動の促進に携わる。

ようこそ！ 公民館へ

～安芸区内公民館～

地域のみなさんの学習活動を応援する最も身近な施設「公民館」でまちづくりに関する活動をしているグループをご紹介します。

1 にほんごくらぶ

船越公民館

「にほんごくらぶ」は毎週土曜日10時～12時まで船越公民館で活動しています。ベトナム、インドネシア、タイ、中国、ミャンマー、韓国などの方々に参加されています。

会の前半は、各学習者の要望や日本語の上達具合に合わせてテキストを使って学習しています。会の後半は、お茶を飲みながらの「おしゃべりタイム」としています。この時間は旅行や休みの日にしたことなどを話し、笑い声が絶えません。また、日本での生活での困りごとや不慣れなことも話題になることがあり、みんなで知恵を出し合い良き情報交換の場となっています。

毎週の定例会とは別に、「牡蠣を食べる会」や近くの神社での「桜のお花見」、自国の料理を作って食べる「多国籍料理交流会」などイベントを楽しんでいます。イベントの時は学習者だけでなく、その家族や友人など多くの方々に参加し交流を深めています。

一緒に活動してくれるボランティアスタッフも募集しています。どなたでも、お気軽に見学にお越しください。お待ちしております。



2 おやじでばんです

瀬野公民館

「おやじでばんです」は奇数月第4金曜日の9時から13時まで、料理の研修をしています。メンバーは最高齢者85歳をはじめ19人で「料理を通じて地域社会に貢献する」をモットーに活動しています。

講師3人の指導のもと、その日のメニュー(ある日のメニュー：ミートソーススパゲティ、コンソメスープ、シーザーサラダ、フレンチトースト)にもとづいて料理を作っています。出来上がった料理を全員で食事で毎回おいしくいただいています。その後、次回の料理の希

望があれば提案し、参考にしています。毎年公民館まつりに参加し、焼きそばを作って販売し好評を得ており、引き続き行っていきたいと思っています。

なお、ほぼ全員後期高齢者なので健康に留意しながら、「おやじでばんです」が永遠に続くように頑張っていきたいと思っています。



3 安芸朗読会

中野公民館

こんにちは私たちは中野公民館を拠点にして、朗読に関係したボランティア活動を続けている「安芸朗読会」です。昭和58年から活動を始めて現在会員数は15人です。

ボランティア活動として、視覚障がいの方に向けて作品を朗読してCDに吹き込んだり、安芸区報・安芸区版くらしのガイドの音声吹き込みCDを作成してリスナーさんにお届けしたりしています。お聴きいただいた方からの感想、ご意見、ご希望はとても嬉しく、次の活動への意欲にもつながっています。他にも訪問活動として、子ども食堂、いきいきサロン、介護施設、催し会場等でのブラックライト紙芝居やクイズ、歌等の活動で皆さんの笑顔づくりに参加させていただいています。

毎月第4月曜日(9時半～12時半頃まで)に会員が集まり、熱心な講師の指導のもとで発生練習、文学作品の朗読練習等の基礎練習をしています。会のスローガンは「明るく元気に笑顔を忘れず!」です。ご興味のある方はぜひ見学にお越しください。



4 フラダンス同好会

阿戸公民館

「フラダンス同好会」は令和3年にスタートし、現在7人の会員でハワイアンフラ・インストラクターの指導のもと、毎月第1・第3木曜日の13時半～15時半に阿戸公民館で活動しています。

ハワイの民族舞踊であり文化の象徴とも言えるフラダンスを、ゆったりとした美しいハワイの音楽に合わせて踊ることで、心も体も癒され

ながら楽しくフラダンスの習得と交流を図っています。

また、日々の練習の成果を「阿戸町民まつり」、「区民文化センターでの発表会」、「フラワーフェスティバル」など、地域のまつりやイベントの場で心を込めて披露しています。

「フラダンス同好会」では、優しい講師の丁寧な指導を受けながら一緒に活動するメンバーを募集しています。未経験者でも、もちろんOKです!老若男女問いませんので、興味のある方は気軽に体験や見学をしてみてください。



5 げんきっくらぶ

矢野公民館

「げんきっくらぶ」は安芸区矢野の子育てサークルです。未就園児のこどもたちの遊び場、ママのリフレッシュ・情報交換の場として月に1回活動をしています。歴代のママたちから引き継ぎ、発足して30年以上になるサークルです。

毎月、お誕生日会や絵本の読み聞かせなどを行っています。ハロウィンやクリスマスなど、月によっては工作や季節イベントを開催しています。また、保健センターや公民館、矢野幼稚園などの各団体と共催して、育児やママに役立つ様々な講座やふれあい遊びなども行っています。

参加者は1歳から保育園に通う子が多いため、0～1歳の子の割合が多いですが、2歳・3歳の子も数名います。また、夏休みにはOB・OGのこどもたちも一緒に遊んで、和気あいあいと活動しています。

毎月第3金曜日の10時～11時半に矢野福祉センターで活動しているので、ぜひ遊びに来てみてくださいね! (詳しくは、「矢野公民館だより」をご覧ください。)



グループへのお問合せについては、各公民館へお願いします。

- ① 船越公民館 …………… ☎082-823-4261
- ② 瀬野公民館 …………… ☎082-894-8006
- ③ 中野公民館 …………… ☎082-893-1234
- ④ 阿戸公民館 …………… ☎082-820-8222
- ⑤ 矢野公民館 …………… ☎082-888-0044

名人宝人 達人

Interview 1

さまざまな分野の達人たちが登録しているまちづくりボランティア人材バンク。地域活動やまちづくりのお手伝いに、今日も、あなたのまちを達人たちがおうかがいしています。

健康情報とリズム体操講座講師 むらかみ きょうこ 村上 恭子さん

誰もがいつまでも輝ける 双方向の健康づくり

村上さんは、高校保健体育科の教諭及び大学教員として培った健康づくりの理論と実践を生かし、幼児期から高齢期までの生涯にわたる健康づくりの指導を行っています。

ことに、高齢期の健康づくりに関心を持たれたのは、ご自身が膝の手術をして、歩くことの大切さや健康のありがたみを身に染みて感じた経験によります。

人材バンクには、令和6年5月に登録し活動の場を広げており、昨年の「まちづくり市民交流フェスタ」では「貯筋のススメ」と題して、理論と実践講座を実施しました。

講座やレッスンといえば、指導者側からの一方通行が多い中、村上さんの講座の特徴は大きく分けて2つあります。1つ目は、参加者の希望を生かした季節や健康上の困りごと（理論）とリズム体操（実践）とを関連させた内容構成です。ある時「最近ペットボトルの蓋が開けられなくなった」という眩きを耳にし、講座「貯筋のススメ」を考案。握力とフレイル*との関連を、手づくり資料を基に話し、参加者の握力を測定します。その場限りではなく、家に帰っても運動が続けられるように可視化したお土産を渡します。そして、「握力」・「手」に関連するお馴染みの音楽を用いて、リズム体操へと発展していきます。



▲リズム体操の様子（令和6年6月）

2つ目は、音楽と運動を用いて行う認知機能の活性化です。リクエストのあった盆踊りを活用した際には「動きはよう覚えてないけど、懐かしいよねえ」という声が聞こえてきました。また、10余年前廃校となった「浅原小学校」の校歌を元に創作したリズム体操で動いた後にも「やっぱり、懐かしいよねえ」という感想を耳にしました。

さらに、参加者が熱狂していた頃の音楽、ベンチャーズの「京都慕情」を椅子に座ってステップをした時は、脚・腰が痛いのを忘れて「青春プレイバック」そのものの笑顔に戻って、楽しそうに動かれていました。

このように、懐かしい音楽の力で海馬（記憶の司令塔）が刺激を受けて、参加者が楽しく笑顔になれる仕掛け作りを講座内容に組み込まれているそうです。

今後は、一度きりの出会いでも参加者の願いを講座内容に生かして「これなら、家に帰ってできるかも」というお土産のある内容を模索中です。また、かつて試行した参加者の得意技を講座内容に織り込んで、一人ひとりが主役になれるコーディネーターを目指されています。

※フレイルとは、加齢により心身が老い衰えた状態であるものの、適切な介入・支援により、生活機能の維持向上が可能な状態のこと。



▲村上恭子さん



▲手づくり資料

まちづくりボランティア人材バンク達人を紹介してもらうには…

まちづくりボランティア人材バンクは「自分の知識や技術を生かしてボランティア活動をしたい」達人と「ボランティアに来てほしい、教えてほしい」団体・グループとをつなげるシステムです。

現在 140 名余りの達人が約 170 件のボランティア活動で登録しています。年間 360 件程度の達人紹介の申込みがあり、日程や活動内容等の条件が整った約 320 件が活動につながっています。

地域活動や手作りイベントなど市民の皆さんが活動する中で、「お願い！達人」という時は、お気軽にご相談ください。

1. 人材バンク紹介申込書の作成

どのような団体・グループが、いつ、どこで、誰を対象に、何をやる行事なのか、希望する達人を所定の申込書へ記入します。決まっていない項目は空欄のまま大

丈夫です。

●紹介申込書は、人材バンク登録内容リストや当プラザ HP、ひろしま情報 a-net から入手できます。

●申込書の作成が難しい場合はご相談ください。

2. 広島市まちづくり市民交流プラザへ申込み

当プラザへ、FAX、Eメール、郵送、窓口へ持参のいずれかで申込書を提出します。初めて申し込まれた団体や詳しいことを確認したい時には、当プラザより連絡をさせていただくことがあります。

3. 当プラザから達人へ連絡・調整

紹介申込書の提出後、希望する達人へ当プラザから打診の連絡をし、紹介の可否を確認します。（連絡・調整には、1週間程度かかります。）

4. 申込団体へ達人の連絡先をお知らせ

達人紹介の内諾が得られたら、達人の連絡先をお知らせします。達人との直接のやり取りのスタートです。速やかに正式な依頼の連絡を取りましょう。

Interview 2

レジリエンスセミナー講師 うじき としこ 宇治木 敏子さん

<https://npojatc.net>



心の折れにくい生き方、育て方を目指し、 タッチ・コミュニケーションで乳幼児時期からその基礎を作る

ストレス過多の現代社会において、心と体のリラックスは重要視されています。自律神経のバランス力を強化し、ストレス耐性をつけ、心身の健康増進のために、概論と実践を合わせた講義、レジリエンスセミナーを行っているのが、宇治木さんです。

平成4年から、ストレスマネジメントの講師を始めると同時に、不登校児童のサポートを行い、平成9年から数年にわたってインドで実践的なストレスマネジメントを学んだそうです。

「現地インドで研修中驚いたのは、子どもたちの目がキラキラと輝き、生きる意欲がみなぎっていたその光景です。直ぐに研修先の医師に質問して分かった事は、インドでは祖母または母親が乳幼児の全身を、撫でるといよりも時にはパタパタと叩きながら、マッサージする、ベビーマッサージを行っているという事。生まれてすぐに、皮膚に刺激を与える事で、自律神経の強化に繋がっているというのです。」

インドでストレスマネジメントに関連するヒントを掴んだ宇治木さんは、帰国後の平成12年から賛同してくれた広島市内の産婦人科で、医学的なベビーマッサージ研究を行い、エビデンスを取り、その成果を基に乳幼児虐待予防活動、子どもの自己肯定感を高める、レジリエンス活動を推進し始めました。

その後、平成15年に活動の母体となるNPO日本タッチ・コミュニケーション協会を設立しました。

折れにくい心、逆境の中にあっても生き延びる力と訳される



▲ベビーマッサージの様子



▲ベビーマッサージ参加者の皆さん

「レジリエンス」の高さは、乳幼児期の親との関わり、特に心身のふれあいに大きく影響するそうです。宇治木さんは「レジリエンス」を支えるコミュニケーションの基盤となる



▲宇治木敏子さん

自己肯定感が、乳幼児の非言語交流（アイコンタクト、スキンシップなど）によって育まれることから、レジリエンス教育を最も効果的な乳幼児期中心に行ってきましたが、実は現在のストレス社会においては職員研修など、レジリエンス教育は、年代を問わず必要とされています。

その後、人材バンクに登録し、以後、広島市内の公民館での子育て支援や高齢者の健康支援、そして教育機関、行政や団体、企業向けのレジリエンス講座も行ってきました。「コロナ前と、コロナ禍以降では団体の活動スタイルにも変化がありました。私自身も挫折しかけた時期もありましたが、20年以上前にベビーマッサージ講座で出会ったママたちが、今はスタッフとなって現在も続けられています」と宇治木さん。

今後は、より多くの人のレジリエンスの向上を図るためにも、企業とタイアップして、育休中の職員向けのセミナーにも力を入れていきたいと考えているそうです。「育休をきっかけに、職員がレジリエンスな生き方、育て方を学ぶことで、子育てに大きな効果が得られるだけでなく、パパやママである職員自身のレジリエンスが向上し、子どもの問題で職場を辞めることもなく、企業にとっても大きなメリットとなると思います」と今後の意欲を語ってくれました。



▲レジリエンスセミナーの様子

5. 活動・イベント等の準備と実施

実施に向けて、達人との十分な打合せを行いましょう。しっかり相談すれば、お互いに良いアイデアが生まれます。いよいよ、活動・イベントの実施です。

6. 活動報告アンケートのお願い

活動終了後、当プラザよりアンケートをお送りします。実施結果や感想、写真、配布資料等を報告してください。その後の紹介に大変役立ちますので、ご協力をお願いします。

まちづくりボランティア人材バンク発表会

仕事や趣味などで得た知識・技術などを生かし、ボランティアとして、助言・実技指導などを行う方々が「まちづくりボランティア人材バンク」に数多く登録されています。当プラザでは、市民グループなどからのご要望により、達人たち（登録ボランティア）の紹介・あっせんをしています。毎月第4土曜日は「人材バンク発表会」の日。達人たちの得意なテーマで講座や催しを開催しています。どなたでもご参加いただけ

ますので、どうぞご来館ください。

日時＝8月23日（土）、9月27日（土）、10月25日（土）

毎月第4土曜日 午後2時～3時半

※時間は変更になる場合がございます。

※テーマはプラザ HP やチラシでお知らせします。

※無料：要事前申込

ボランティア紹介・登録などのお申込・お問い合わせは…

広島市まちづくり市民交流プラザ（合人社ウエンティひと・まちプラザ）

☎(082)545-3911 (082)545-3838

※当バンクは、政治、宗教、営利目的の活動での利用はできません。

※達人紹介は、団体・グループからの単発な活動に限ります。個人活動や長期継続活動への紹介はできません。

※達人は、実費弁償ボランティアとして活動します。交通費、資料代、材料費等の実費は、申込団体にご負担いただきます。